

令和8年度予算案のEBPM「児童虐待防止対策推進広報啓発事業」

課題データ

全国の児童相談所における虐待相談対応件数は依然として多い傾向にあり、こどもの生命が奪われる重大な事件も後を絶たないなど、深刻な状況が続いている。
また、ヤングケアラーの社会的認知度が低く、支援が必要なこどもがいても、こども自身や周囲の大人が気付くことができない。

事業

児童虐待防止対策推進広報啓発事業

令和8年度当初予算案：1.8億円

年間を通じて、また毎年11月に実施する「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」においては特に集中的に、様々な広告媒体を活用し、体罰によらない子育て、児童虐待防止、ヤングケアラー認知度向上のための広報啓発を実施する。特にヤングケアラーは、支援が必要であっても表面化しにくい構造となっているため、社会的認知度を上げ、こども自身が支えてもらいやすい社会風土を築き、相談、支援につなげることを目的とする。

- クリエイティブ（ポスター・リーフレット）の制作、印刷、梱包・発送
- クリエイティブ（普及啓発動画等）の制作、発信・展開
- 特設ホームページの運営及び運用保守、コンテンツの追加・更新
- こどもの虐待防止推進全国フォーラムの開催、ヤングケアラーイベントの開催 等

※アウトプット、アウトカムの（）内は直近の実績値

EBPM指標

アウトプット	体罰等によらない子育ての推進、虐待防止等に係るインターネット広告等の表示回数（インプレッション数） 2026年度 5,000,000回 （27,930,163回）	ヤングケアラーの認知度向上に係る動画再生回数 2026年度 500,000回 （1,645,659回）
短期アウトカム	—	—
中期アウトカム	—	—
長期アウトカム	児童相談所虐待対応ダイヤル「189」の認知度 2026年度 50% 「親子のための相談LINE」の認知度 2026年度 30%	中高生におけるヤングケアラーの認知度 2026年度 50%

目標

こども・若者の権利保障とその視点の尊重、意見聴取と対話

良好な成育環境の提供

すべてのこども・若者の健やかな成長の保障

結婚・子育てに関する希望の形成とその実現を阻む隘路の打破

こども・若者の幸福な生活 / 少子化トレンドを大きく変える / 未来を担う人材の育み